

令和元年度 堺市立図書館サービス評価

堺市立図書館
第三者評価：堺市立図書館協議会

令和2年12月

第三者評価凡例

A:非常に評価できる

B:評価できる

C:あまり評価できない

D:全く評価できない

内容

新型コロナウイルス感染症の影響について.....	3
I 各サービス方針にかかる評価	4
1. 地域の知の拠点として、市民の暮らしに役立つ資料・情報を提供します。.....	4
2. 市民の生涯学習の場として、さまざまな学習機会を支援します。.....	6
3. 快適な利用空間の提供につとめます。.....	8
4. 地域の情報を収集・保存・提供し「歴史文化のまち堺」の発信と継承に貢献します。.....	10
5. 子どもの読書環境の充実につとめます。.....	12
II 令和元年度 各図書館の取組状況	15
W e bでの貸出等	15
令和元年度 各図書館の取組状況 (堺区)	16
// (中区)	19
// (東区)	21
// (西区)	23
// (南区)	25
// (北区)	27
// (美原区)	30
III 令和元年度の総評	32
IV 基本的な図書館活動指標	35

新型コロナウイルス感染症の影響について

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止のため、堺市立図書館は令和 2（2020）年 3 月 2 日から 5 月 25 日まで臨時休館し、閲覧をはじめとした来館型サービスを休止しました。そのため休止したサービスに係る数値については昨年度より減少しています。

<休止した主な来館型サービス>

- 閲覧席の利用
- 利用者登録（新規・更新・再発行）
- 資料の貸出（予約資料を含む）

<継続した主なサービス>

- レファレンスサービス（電話、WEB での受付）
- 電子書籍提供サービス

<令和元年度に中止した行事>

- おはなし会など定例なもの... 72 行事
- その他 ... 25 行事

■主なもの

堺区 …ビブリオバトル、春の絵本を楽しむ会、春のおはなし会、春のえほんひろば

中区 …図書館まつり「なかとしょかんにいこう！」

東区 …保護者向け講座「お金をとおして自立的な子どもを育てる」

西区 …子ども哲学カフェ、フルートコンサート

南区 …スマホでかんたん検索講座

北区 …北図書館フェスタ

美原区…聞いて楽しむ本の世界～大人のための朗読会～、自分だけの防災マップをつくろう、初代アレクサンドリア図書館長からの難問

<全館まとめ>

臨時休館…25 日（令和 2 年 3 月 2 日から 31 日まで）

※令和 2 年度も 4 月 1 日から 5 月 25 日まで、引き続き臨時休館措置を実施）

		平成 30 年度	令和元年度	前年度比（％）
来館者数（人）	4 月～3 月	2,223,697	2,001,220	90.9%
	（参考）4 月～2 月	2,029,528	1,992,521	98.1%
貸出点数（点）	4 月～3 月	4,313,266	3,951,877	91.7%
	（参考）4 月～2 月	3,942,348	3,918,209	99.3%
予約点数（点）	4 月～3 月	1,108,130	1,070,527	96.6%
	（参考）4 月～2 月	1,011,778	1,032,570	102.0%

I 各サービス方針にかかる評価

1. 地域の知の拠点として、市民の暮らしに役立つ資料・情報を提供します。

市民の多様化・高度化するニーズに対応し、地域の課題解決に必要な資料・情報を提供します。また、レファレンス（調査相談）機能を強化するとともに、ICT を積極的に活用し、情報へのアクセスポイントとしての機能の充実に努めます。

定量的指標・政令市比較	堺市		R1政令市平均	順位 (20市)	H30順位 (20市)
	H30	R1			
蔵書数	1,894,075	1,896,662 点	2,403,691 点	17位	17位
市民千人あたり	2,285	2,295 点	1,970 点	7位	7位
年間個人貸出点数	4,240,402	3,886,601 点	5,551,739 点	15位	13位
市民千人あたり	5,115	4,703 点	4,297 点	7位	7位
相互貸借借受数	6,180	4,771 点	5,472 点	11位	10位
市民千人あたり	7	6 点	4 点	5位	4位
資料費（決算ベース）	98,191	98,500 千円	135,636 千円	16位	14位
市民一人あたり	118	119 円	113 円	8位	6位

政令指定都市立図書館長会議資料より

具体的取組	指標	H30	R1	単位	目標値	評価	評価（数値）
ICTを活用した 情報の提供	「本の紹介・ブックリスト」ページ閲覧回数	185,960	163,656	回	127,400	◎	128%
	新着図書お知らせメール送信点数	244,810	264,803	点	230,000	◎	115%
司書の専門性	職員研修参加延人数（館外研修含む）	163	155	人	150	◎	103%
	司書資格保有率（正規職員）	88%	88%	%	90%	○	98%
広報活動	ゆづりは等の広報物発行回数	74	89	回	50	◎	178%
	広報誌掲載件数、報道提供、新聞への掲載件数	広報さかい	60	64	件	-	-
		区広報	84	97	件	-	-
		報道提供・資料提供	4	6	件	-	-
		新聞への掲載件数	1	6	件	-	-
		合計	149	173	件	150	-
	チラシ等発行枚数	63,246	55,815	枚	59,700	○	93%

◎：達成度 100%以上 ○：達成度 80%以上～100%未満 △：達成度 50%以上～80%未満 ×：達成度 50%未満

I 各サービス方針にかかる評価

令和元年度の取組について
● 中央図書館基本指針～図書館サービス機能の向上のために～(素案)を作成し、パブリックコメントを開始しました。結果を反映し、令和2年度の策定を予定しています。 ● 国立国会図書館が実施しているレファレンス協同データベース事業(※1)において、堺市立図書館が登録したレファレンス事例が昨年度に引き続き 200 点を超え、国立国会図書館館長から御礼状をいただきました。これからもレファレンスサービスを通じて、資料・情報の提供に努めてまいります。 ● 堺市に関連する新聞記事見出しをデータベース化し、見出しとキーワードでの検索機能を加え、「堺市関係新聞記事見出し索引」として図書館ホームページで公開しました。随時追加、遡及を進めており、内容の充実に努めます。 ● 新たに SNS を活用した事業として、堺市立図書館公式 Twitter を令和2年2月25日に開始しました。開館情報や、イベント案内、その他資料に関する情報などを発信していきます。 ● 令和元年度 図書館利用者アンケートについて、より多様な意見を集められるよう、今年度は平日に加え日曜日にも実施しました。アンケート結果は R-PDCA サイクルの R(リサーチ)として位置付け、業務改善につなげていきます。 ● 専門知識や技能の継承を目的として、おおむね採用3年目までの職員を対象に、児童サービス業務研修や書誌作成研修などを実施しました。 ※1:国立国会図書館レファレンス協同データベース…国立国会図書館が全国の図書館などと協同で構築している、調べ物のためのデータベース。

図書館協議会委員の意見と評価
● 定量的指標、政令市比較において4項目中2項目が順位を落としている。電子書籍の利用促進については評価できる。 ● 堺市立図書館が登録したレファレンス事例が昨年度に引き続き、国立国会図書館長から御礼状をいただいたことは評価できます。その一方で、年間個人貸出点数が減少していることは残念です。 ● 色々、新しい挑戦も行い、頑張っている点は評価しますが、何よりもまず先に資料の充実が肝心だと思います。その点で、資料費が残念ながらじゅうぶんとは言えません。もっと専門書や基礎的データ資料が必要ではないか。そういう意味でB評価とします。 ● 堺市に関連する記事や見出しをキーワードで検索ができるのは便利でいいと思った。コロナの時期なので、インターネットの発信活用が増えて、いいことだと思うが、そういった環境でない人も多いので、同時に発信が届くような取り組みもしているか、知りたかった。 ● アンケートで日曜日にも実施とあったが、土、日の来館者は平日に来られない人の利用も多いのでいいと思う。 ● レファレンス事例の増加は、図書館利用法の向上とみられる。できれば量だけでなく質についても知りたい(相談例と回答例) ● 「新聞記事見出しデータベース」ととても大事なお仕事だと思います。ただしこういう仕事は、市の広報課のような部署が行われるものかと思っていました。 ● 蔵書数・資料費が政令市の中で低いのは残念。ベストセラーのようなものも必要でしょうが、図書館でしかみれない専門書の充実もお忘れなく。 ● 前年度の政令指定都市との比較では、やや下回った順位という結果であった。 ● 図書館の ICT と言えば、最近では電子書籍の提供をまず思い浮かべるが「1」に出てこない。基本的な図書館活動指標に掲載されてはいるが、「1」に何らかの指標を載せた方がよいのではないか。 ● 一概に「役立つ」といっても、具体的にどうなのかわかりにくいと思います。項目の表現を変えてはどうでしょう。 ● レファレンスサービス ● SNS の活用 ● アンケートの日曜日実施 委員評価 A: 3名 B: 6名 C: 0名 D: 0名 評価点 77点(100点満点)

I 各サービス方針にかかる評価

2. 市民の生涯学習の場として、さまざまな学習機会を支援します。

市民の自主的・自発的な学習活動を支援し、講習会等、さまざまな学習機会の充実に努めます。また、市民との協働により、学びを通じた市民の交流を推進します。

定量的指標・政令市比較	堺市			R1政令市平均		順位 (20市)	H30順位 (20市)
	H30	R1					
団体貸出点数	72,864	65,276	点	81,439	点	9位	9位
市民千人あたり	88	79	点	66	点	6位	6位
レファレンス受付件数	76,278	90,051	件	92,164	件	9位	11位
市民千人あたり	92.0	109.0	件	65	件	2位	5位

政令指定都市立図書館長会議資料より

具体的取組	指標		H30	R1	単位	目標値	評価	評価（数値）
市民の生涯学習 の場の提供	ブックフェア開催回数		397	399	回	360	◎	111%
	読書会等への団体貸出点数		2,239	960	点	2,000	×	48%
	家庭・地域文庫、公共施設、のびのびルーム等への団体貸出点数		25,109	20,726	点	26,000	△	80%
	市民との協働事業実施回数・延べ参加人数（堺図書館サポーター倶楽部、堺メモリー倶楽部、堺図書館ビブリオバトル倶楽部）	堺図書館サポーター倶楽部	861	715	回	目標値を設定しない	-	-
			2,681	2,283	人		-	
		堺メモリー倶楽部	25	18	回		-	
			135	61	人		-	
		堺図書館ビブリオバトル倶楽部	4	4	回		-	
			21	104	人		-	
	市民主催事業参加者数（子ども夢基金助成事業による講演会等、市民が企画・運営した事業を指す。図書館は広報等に協力）		1,157	1,381	人	目標値を設定しない	-	—
	子どもの読書に関わる「ボランティア養成講座」参加延人数		195	236	人	200	◎	118%
	「ボランティアステップアップ講座」平均参加率（参加者／定員）		64	102	%	80	◎	128%
多様な学習 活動支援	図書館主催講演会等開催回数・延参加人数		35	22	回	80	×	28%
	（地域資料記念講演会、堺歴史文化市民講座、課題解決支援講座、市民参加型イベント等）		1,985	1,466	人	1,300	◎	113%

◎：達成度 100%以上 ○：達成度 80%以上～100%未満 △：達成度 50%以上～80%未満 ×：達成度 50%未満

I 各サービス方針にかかる評価

令和元年度の取組について
● 百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録を記念して、ホームページ上に特設ページを開設しました。中央図書館で開催したブックフェアと展示、関連のデジタルアーカイブや電子書籍紹介とあわせ、全国各地の図書館で開催された世界遺産関連のブックフェアを紹介しました。 ● プログラミングの入門書や音声データ付きの多聴多読資料など、学習に役立つ電子書籍の拡充に努めました。 ● 千の夢きらめく堺星空館（ソフィア堺プラネタリウム）と連携した保護者向け講座や、発達障害者支援センターと連携した障害者理解促進講座、国際部アセアン交流推進室と連携した堺歴史文化市民講座など、他機関と連携して各区で市民参加型講座を実施しました。併せてパネルや資料の展示を行い、図書館の利用促進を図りました。 ● レファレンス件数が前年度と比較して 20%増加し、市民千人あたりで比較すると、政令市では第 2 位となりました。今後も図書館利用者への支援に努めます。
図書館協議会委員の意見と評価
● レファレンス受付件数の人口当たりの数値が政令市で 2 位になったことは評価できる。 ● 具体的取組 10 項目中 5 項目において、コロナの影響とはいえ減少している。 ● 団体貸出点数が前年度と比較して、レファレンス受付件数が増加している点が評価できます。 ● ソフィア堺プラネタリウム等、他機関と連携した講座の促進を今後も期待します。 ● 市民の自主的な学習活動を支え、市民活動の支援をもっとしてほしいと思います。そのためには資料の充実もそうですが、何よりも場の提供となるインフラ（会議室、印刷機、コピー機、ロッカー等の設置）整備が必要であると考えます。この点については新中央図書館の建設まで待たねばならないのかもしれない。 ● 現在、企画等については、市民の参画度が高いとは思われず、市民との協働と言う点では少し不十分と思われず。 ● レファレンスが政令市で 2 位とはすごいです。まだ、このサービスを知らない人もいますので、今後も図書館では、PR して行ってほしい。 ● 他機関と連携しての講座や展示などは、市民と図書館の結びつきを促進する効果はあったと思った。 ● 他機関と連携しての市民参加型学習は各地域館の独自性が発揮されていて好印象をもちますが、図書館利用とのつながりについて検討も必要。 ● 図書館主催の市民参加学習が、公民館などの自主的学習活動とどう異なるのか、独自性をどう発揮するか。 ● レファレンス件数が前年度と比較 20%増加している。レファレンスサービスについて市民の満足度が高いとも言える。 ● 世界文化遺産登録を記念してホームページ上に特設ページを開設。 ● レファレンス件数が前年比 20%増加 ● 引き続き、市民の興味や関心のある分野、市民として備わっているとよいカテゴリーについて、学習機会の提供をお願いします。講師の人材の発掘もお願いします。
委員評価 A： 6 名 B： 3 名 C： 0 名 D： 0 名 評価点 89 点(100 点満点)

I 各サービス方針にかかる評価

3. 快適な利用空間の提供につとめます。

市民が安全で安心して利用できるよう、親しみやすく快適な読書環境の充実に努めます。また、高齢者や図書館利用に障害のある方が、安心して利用できる場の提供に努めます。

定量的指標・政令市比較	堺市			R1政令市平均		順位 (20市)	H30順位 (20市)
	H30	R1					
図書館延床面積	18,572	18,572	m ²	25,995	m ²	14位	14位
市民千人あたり	22	22	m ²	21	m ²	7位	7位
中央図書館延床面積	4,635	4,635	m ²	9,440	m ²	15位	15位
市民千人あたり	5.59	5.59	m ²	7	m ²	13位	14位
開館日数（中央館）	308	285	日	297	日	14位	8位

政令指定都市立図書館長会議資料より

具体的取組	指標	H30	R1	単位	目標値	評価	評価（数値）
快適な利用 空間の提供	来館者アンケート調査 「館内の過ごしやすさについて」	3.89	3.94	-	4	○	99%

◎：達成度 100%以上 ○：達成度 80%以上～100%未満 △：達成度 50%以上～80%未満 ×：達成度 50%未満

I 各サービス方針にかかる評価

令和元年度の取組について
● 中央図書館に司書がすすめる本のコーナーを、南図書館梅分館に認知症に関するミニコーナーを新設し、西図書館では国立がん研究センターよりがん関連資料の寄贈を受けてがんコーナーを拡充するなど、親しみやすく、高齢者をはじめとした利用者に興味を持って利用いただけるよう展示コーナーを整備しました。 ● 令和元年度は施設のバリアフリー化など、具体的な環境改善にはいたりませんでした。令和 2 年度策定予定の中央図書館基本指針に基づき、快適な読書環境の充実に努めます。

図書館協議会委員の意見と評価
● 全館的に施設・設備の老朽化・陳腐化が課題である。 ● 来館者アンケートの結果も目標値に達していない。 ● 高齢者や図書館利用に障害のある方が、安心して利用できる場の提供に努めるとあるので、施設のバリアフリー化など、具体的な環境改善に取り組んでいただきたいと思います。 ● 中央図書館は、最近書架において表紙見せ等の工夫がみられ、努力の跡が見える点は評価できます。しかし、広さ、建物備品の古さ等、如何ともしがたい。 ● 美原・東・中図書館は比較的良好な読書環境にあり、地域館によってバラつきがあり、西は改装後に期待したい。 ● 現状の中央館はバリアフリーの点も含めて、あまりにも悪すぎるので、全体としてはCとせざるを得ない。1日も早く中央図書館の建て替えが望まれます。 ● おすすめの本のコーナーでは、利用者が手に取りたくるような興味ある本が並べられていいと思った。 ● 図書館の環境、という点では、中央図書館に関しては早い新設を望むが、快適な読書環境として図書館の周りの敷地を有効に利用してはどうかと思う。 ● いくつかの地域館をみて、多くが適切な書棚の高さ、一望しうる平面構造になっているのにくらべ、中央図書館の構造は問題多し。(階段を上ったの閲覧室、カウンターのスペースの狭さ、参考書と一般図書間の仕切り壁…) ● 指標が少ないので評価が難しい。 ● 開館日数の順位が8位から14位と大きく下がったが理由は何か。 ● 美原図書館のような、利用者がわくわくした気持ちで入館できるような装飾やレイアウトの配慮を、他館も参考にされてはどうでしょうか。
委員評価 A: 1名 B: 2名 C: 6名 D: 0名 評価点 48点(100点満点)

I 各サービス方針にかかる評価

4. 地域の情報を収集・保存・提供し「歴史文化のまち堺」の発信と継承に貢献します。

堺の地域資料の収集・保存および電子化に取り組むことで、「歴史文化のまち堺」の情報の発信に努め、次世代への継承に貢献します。また、地域資料を活用した文化活動の支援に努めます。

具体的取組	指標	H30	R1	単位	目標値	評価	評価（数値）
堺の歴史文化に関する資料や市政情報を収集・保存・提供	図書館作成デジタル地域資料閲覧回数	2,098	3,741	回	3,000	◎	125%
	地域資料のページ全体の閲覧回数	512,503	341,079	回	405,000	○	84%
	マイクロフィルム化・デジタル化したコンテンツ数	2,192	2,031	点	3,000	△	68%
	郷土資料展記念講演会参加者満足度 「とてもよかった」「よかった」の割合	67	83	%	80	◎	104%
	「堺歴史文化市民講座」参加者満足度（平均）「とてもよかった」「よかった」の割合	87	87	%	80	◎	108%

◎：達成度 100%以上 ○：達成度 80%以上～100%未満 △：達成度 50%以上～80%未満 ×：達成度 50%未満

I 各サービス方針にかかる評価

令和元年度の取組について
● 堺市に関連する新聞記事見出しをデータベース化し、見出しとキーワードでの検索機能を加え、「堺市関係新聞記事見出し索引」として図書館ホームページで公開しました。随時追加、遡及を進めており、内容の充実に努めております。(再掲) ● 百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録を記念して、ホームページ上に特設ページを開設しました。中央図書館で開催したブックフェアと展示、関連のデジタルアーカイブや電子書籍紹介とあわせ、全国各地の図書館で開催された世界遺産関連のブックフェアを紹介しました。(再掲) また、北図書館では館内で長期間にわたってブックフェアを開催しました。 ● 堺歴史文化市民講座の企画では、北区独自の歴史文化に関わりつつ、区内で地域に根ざして「魅力あふれる百舌鳥野をつくる会」で活動する辻輝夫氏に「ものづくりの視点から見た百舌鳥古墳群」と題する講演をしていただきました。

図書館協議会委員の意見と評価
● 概ね目標値を達成している。 ● 郷土資料展記念講演会参加者の満足度が H30 より高くなっていることがとても評価できますが、参加人数の比較も知りたいところです。「歴史文化のまち堺」の発展を今後も続けていただきたいです。 ● 堺は歴史のある街なので、これまでも地域資料に力をいれてきて、それなりの実績もありますが、情報発信という点ではまだまだ工夫がいるのではないかと。講演会の企画は概ね好評とは言え、参加人数等、量としては少ない。これからの更なる情報発信に期待したい。 ● 「堺市関係新聞記事見出し索引」はとてもよい取り組みだと思った。デジタル化したコンテンツ数が目標値までなかなか行かないのはなぜだろう？ ● これらのデジタル化したものをいかに閲覧してもらえるか、学校でも歴史や堺の学びに使ったり、家で見られない人にも「図書館でみられますよ」と PR をしてゆけば、市民や全国の必要な人に利用してもらえと思った。 ● デジタル画像を通じて、堺市立図書館の収蔵資料が、本だけでなく、貴重な歴史資料を豊富に所蔵することを知ってもらえる大きな意義をもつ。できれば、デジタルデータベース全体の公開が望まれる。すでに他市でも実施されているように、精細画像を通じて資料全体を全国の人々に公開することは、閲覧者が限られるにせよ、堺市立図書館の存在価値を高める。 ● 堺市の歴史・文化の情報発信に力を入れている点などを高く評価する。 ● 収集に努力されていることを評価します。
委員評価 A：7名 B：2名 C：0名 D：0名 評価点 92点(100点満点)

I 各サービス方針にかかる評価

5. 子どもの読書環境の充実につとめます。

乳幼児期から青少年期まで読書に親しめる事業や保護者への啓発活動を推進します。子どもの読書活動を計画的に推進するため、地域のボランティアや学校・幼稚園・保育所園等との連携の強化を図り、子どもの読書環境の醸成に取り組みます。

定量的指標・政令市比較	堺市			R1政令市平均		順位 (20市)	H30順位 (20市)
	H30	R1					
児童書蔵書数	524,307	524,201	点	618,118	点	12位	12位
市民千人あたり	632	634	点	516	点	6位	6位
児童書個人貸出点数	1,647,370	1,505,410	点	1,807,582	点	11位	9位
市民千人あたり	1,987	1,821	点	1,408	点	3位	3位

政令指定都市立図書館長会議資料より

具体的取組	指標	H30	R1	単位	目標値	評価	評価（数値）
区域の 読書活動推進	子どもを対象とした図書館主催事業実施回数・（おはなし大会、子ども司書講座、児童を対象とした各種講座・堺市図書館まつり等の事業）※おはなし会等定例行事は「基本的な図書館活動指標」に記載	106	94	回	100	○	94%
	延べ参加人数	5,550	4,900	人	4,700	◎	104%
	子どもの読書に関わる「ボランティア養成講座」参加人数（再掲）	195	236	人	200	◎	118%
	「ボランティアステップアップ講座」平均参加率（講座定員に対する参加率・再掲）	64	102	%	80	◎	128%
市民の 主催事業の 支援	市民主催事業参加者数（子ども夢基金助成事業による講演会等、市民が企画・運営した事業を指す。図書館は広報等に協力・再掲）	1,157	1,381	人	目標値を設定しない	-	-
乳幼児とその保 護者への 啓発活動	「保護者向け講座」平均参加率	60	88	%	80	◎	109%

◎：達成度 100%以上 ○：達成度 80%以上～100%未満 △：達成度 50%以上～80%未満 ×：達成度 50%未満

令和元年度の取組について
● 前年度試行実施した絵本パック貸出事業「親子で読書」は、今年度前期、後期の2回実施、合計34件の応募がありました。購入資料も増え、着実に定着しています。また新規事業として、絵本の選び方や楽しみ方を啓発する「親子いっしょにえほんひろば」を開始しました。事前に職員研修を行い、各区の図書館から12か所の子育てサークルに職員を派遣しました。なお中図書館では訪問時に参加者へアンケート調査を行い、図書館未利用者が40%というアンケート結果を得ました。 ● 東区では学校図書館チーム支援事業として学校教育部と連携し、区内4校の3年生、4年生を対象にのべ75時間の訪問を実施しました。「のりもの」「たべもの」といったテーマを設けたブックトークを中心に行いましたが、教員からの要望により、総合学習「福祉」に関連するブックトークではブックリストを提供するなど、授業支援につながりました。また、分類記号や百科事典の使い方、読書感想文の書き方などのプログラムを実施しました。 ● 北区では北区子育てフェスタにおいて、ボランティアの協力により、「えほんのひろば」と読み聞かせ会を実施しました。「紀伊國屋書店」と共同でブックリストを作成・配布しました。参加者の親子に図書館のPRを行い、積極的に図書館利用への誘導を行いました。 ● 南区では「堺市子ども読書活動推進計画」の具体的取組として、ブックリスト「子ども司書のおすすめ本」を編集し、区役所と連携して、区内全小学校へ8,600部を配布しました。あわせて子ども司書が作成したPOP(本の紹介)を区役所ほか区内3小学校で展示しました。

図書館協議会委員の意見と評価
● 概ね目標値を達成している。 ● 子どもの読書に関わる「ボランティア養成講座」の参加人数が平成30年度より約40名増えている一方で、子どもを対象とした講座及び参加人数が減少していることは残念です。 ● 子どもの読書活動推進の鍵を握るのは、学校・園・家庭です。とりわけ学校は重要であり、一刻も早く（全校配置・1日30時間以上勤務の）学校司書の配置が望まれる。図書館側が連携を強化しても、受け手の学校に受け止める力がなく、図書館だけの努力では如何ともしがたい。一方、読書活動推進に力となる読書ボランティアの存在は心強いので、読書ボランティアへのより一層の支援に努めてほしい。 ● 子育てサークルでのアンケートをとった時、図書館未利用者が40%とあったが、どうしてか？（図書館は利用しにくいのか、行くのが遠いのか）そこが知りたいところだが、この機会に図書館に来てもらえるいいきっかけになったと思った。 ● 東区では、学校訪問をしてブックトークや図書に関するレクチャー等授業支援の協力をしていていい事と思う一方、図書館職員の負担はいかかなものか。これも学校図書館に常時図書館司書がいれば解決するし、図書館、学校図書館のネットワークを作って環境を整えることも考える必要があると思う。 ● 図書館と市民が協同で、最も熱心な活動がみられる分野、とくに小学校高学年へ75時間にわたる学校図書館支援は子どもたちだけではなく、大人にとっても興味をひきおこす。なお、読書において、子ども向け、大人向けという区分わけについては一考を要するのでは。 ● 司書の意識も高く、子どもの読書環境の充実・醸成に取り組んでいる。昨年度の課題であった「保護者向け講座」の参加率が上がり改善されている点を評価したい。 ● 「親子で読書」の実施 ● 「えほんのひろば」と読み聞かせ会 ● 学校園への働きかけをよくされていると思います。
委員評価 A: 7名 B: 2名 C: 名 D: 名 評価点 92点(100点満点)

I 各サービス方針にかかる評価

Ⅱ 令和元年度 各図書館の取組状況

各区ではそれぞれ地域の実情に応じた取組を行っています。次ページからは、令和元年度の取組について、各図書館でページを作成しました。

＊数値について

- 人口は堺市推計人口(令和2年4月1日現在)
- 人口以外は「令和2年度 図書館概要」より
- 「協力貸出点数(借受)」には提供不可の点数を含む(各区とも共通)

Webでの貸出等

(参考)

定量的指標	H30	R1	前年度比	4月～2月比
貸出期限延長点数	361,783	353,108 点	97.6%	106.5%
市民千人あたり	436	427 点	97.9%	106.8%
予約点数	829,923	823,045 点	99.2%	104.2%
市民千人あたり	1,001	996 点	99.5%	104.5%
電子書籍貸出者数	4,956	7,023 人	141.7%	133.6%
市民千人あたり	6	8 人	142.2%	134.0%
電子書籍貸出点数	9,297	12,992 点	139.7%	123.9%
市民千人あたり	11	16 点	140.2%	124.3%
電子書籍予約点数	1,526	2,348 点	153.9%	151.0%
市民千人あたり	2	3 点	154.4%	100.0%

※人口826,481人（令和2年4月1日現在）

令和元年度 各図書館の取組状況 (堺区)

(参考)

定量的指標	H30	R1	前年度比	4月～2月比
貸出点数 (個人)	819,257	769,026 点	93.9%	101.4%
区民千人あたり	5,540	5,190 点	93.7%	101.2%
予約点数	59,158	53,151 点	89.8%	96.9%
区民千人あたり	400	359 件	89.7%	96.7%
レファレンス受付件数	24,677	27,894 件	113.0%	122.0%
区民千人あたり	167	188 件	112.8%	121.7%
協力貸出点数 (借受)	1,332	1,289 点	96.8%	96.4%
うち大阪府外公共図書館・大学図書館からの借受	41	23 点	56.1%	48.6%

※人口148,164人 (令和2年4月1日現在)

※堺市駅前分館を含む

今年度の目標

堺市の中央図書館として、以下の事業に取り組みます。

1. ふるさと納税を活用した事業

前年度試行実施した絵本パック貸出事業について、今年度は、絵本の選び方や楽しみ方を啓発する「親子いっしょにえほんひろば」として制度設計を行い、職員研修を行うことで各区での事業実施を支援します。

2. レファレンス機能に関する事業

堺市立図書館ホームページから堺市に関する新聞記事の見出しが検索できる機能を新たに設けることで地域の情報提供を充実し、利便性の向上を図ります。

堺区の図書館として、以下のことに取り組みます。

1. レファレンスサービスについて

利用方法の周知や利用者に分かりやすいカウンターの配置、接遇などに取り組むことで、年間レファレンス件数の前年度比増をめざします。

2. 利用促進に向けて

庁内他部局や関連機関と連携することで、資料・情報の活用に努めます。また、区と連携して子育て世代へ図書館利用についての情報提供を行います。

取組結果

堺市の中央図書館として、以下の事業に取り組みました。

1. ふるさと納税を活用した事業

絵本パック貸出事業「親子で読書」は前期、後期の2回実施、貸出団体数は昨年度の26団体から34団体に増加しました。文庫や病児保育の事業所など、利用団体の幅も広がっています。寄付金額は、開始から累計で約176万円となり、多くの資料を購入しています。

また、新規事業として、絵本の選び方や楽しみ方を啓発する「親子いっしょにえほんひろば」を開始、各区の図書館から12か所の子育てサークルに職員を派遣しました。

2. レファレンス機能に関する事業

堺市に関する新聞記事の見出しが検索できる機能を図書館ホームページに開設しました。地域に関する情報提供の充実、利便性向上が認められ、教育長表彰を受けました。

堺区の図書館として、以下のことに取り組みました。

1. レファレンスサービスについて

年間レファレンス件数が前年度比約13%増となりました。クイックレファレンスを計上する方法を簡便にする、書庫の配架図を刷新し、短期臨時職員の書庫出納にかかる時間を短縮する、カウンター案内図を刷新する、などの改善が成果につながったととらえています。

2. 利用促進に向けて

・市内他部局や関連機関との連携

資料を図書館以外の場所での展示・ブックフェアに使用してもらうことで認知症理解を促進する目的で、地域包括支援センター、市内の病院等の協力を得て認知症ブックフェアパック事業を試行実施しました。特に長期展示をおこなった2病院は、積極的に掲示物を作成されるなど協力的で、イベント展示でのアンケートの結果も満足度の高いものになりました。



「科学道 100 冊」ブックフェア

理化学研究所とのコラボレーションで、「科学道 100 冊」のブックフェアを開催したほか、司書がおすすめする本のコーナーを新設しました。



認知症ブックフェア

また、区と連携して「welcome ファミリー講座」を実施、堺区に転居してこられた子育て世代に向け、図書館利用についての情報提供を行いました。

図書館協議会委員の意見

- 年度の目標であるレファレンスサービスの実績向上について成果を上げたことは評価できる。
- ふるさと納税を活用した事業「絵本パック貸出事業」が昨年度に引き続き、昨年度以上に活発に展開されていることをうれしく思います。新規事業である「親子いっしょにえほんひろば」を開設したことにより、より一層親子のコミュニケーションがはかれる環境づくりに貢献していただきたいと思います。
- 中央館として、レファレンス機能の強化には力を入れてほしい。
- 行政支援サービスに力を入れるべき。そうすれば市役所内での図書館の必要性や評価につながると思う。
- 他機関との連携で理化学研究所とのコラボ「科学道 100 冊」はよかった。普段手に取りにくい本と出会いがあり、おもしろかった。
- レファレンス業務の簡便化、配架図、案内図の刷新による改善がレファレンスサービス増加につながったのはいいと思った。

Ⅱ 令和元年度 各図書館の取組状況

- 庁内他部局、地域包括支援センターや病院など関連機関との連携で、図書館以外の場所での「認知症ブックフェア」は、本と出会う機会を増やし、新鮮な形で身近に本とふれられていいことだと思った。「科学道100冊」ブックフェアも実際見たが興味深い本の紹介だった。
- 「新聞記事見出しデータベース」とても大事なお仕事と思います。ただしこういう仕事は、市の広報課のような部署が行われるものかと思っていました。(再掲)
- レファレンス事例の増加は、図書館利用法の向上とみられる。できれば量だけでなく質についても知りたい(相談例と回答例)(再掲)
- 他部局や機関との連携は、新たな深い知識へ進むために効力
- 図書館見学はもとより、市全体としてまず市職員に図書館の業務・サービス内容について具体的によく知ってもらうことが必要ではないか。
- 年間レファレンス件数が前年度比 13%増はレファレンスサービス回答への満足度のあらわれだと思います。引き続き、頑張ってください。
- 堺東駅前のサテライト図書サービスコーナーの整備予定は評価。
- 大概の課題解決のためにも中央図書館の建て替えを含めた施設更新が急がれると思います。

令和元年度 各図書館の取組状況 (中区)

(参考)

定量的指標	H30	R1	前年度比	4月～2月比
貸出点数 (個人)	447,434	402,505 点	90.0%	97.6%
区民千人あたり	3,644	3,299 点	90.5%	98.2%
予約点数	24,158	20,622 点	85.4%	91.2%
区民千人あたり	197	169 点	85.9%	91.8%
レファレンス受付件数	6,077	5,389 件	88.7%	99.3%
区民千人あたり	49	44 件	89.2%	99.9%
協力貸出点数 (借受)	604	451 点	74.7%	73.2%
うち大阪府外公共図書館・大学図書館からの借受	27	33 点	122.2%	123.1%

※人口122,022人 (令和2年4月1日現在)

※東百舌鳥分館を含む

今年度の目標

中区の図書館として認知度を上げ、夏休み期間中(7・8月)の利用拡大(来館者数・貸出冊数前年度比100%以上)のため、以下の取組を行います。

1. 複合施設「ソフィア堺」にある図書館として、他機関と連携したイベントを企画・実施をします。それにより相互の施設の利用拡大をめざします。
2. 中区役所の各課・管内の福祉施設などと連携・情報交換等を行い、高齢者や子育て世代のニーズにあったサービスを展開します。
3. 図書館事業のPR方法を世代に合わせた形で見直しを行います。

取組結果

1. 「保護者向け講座 星と宇宙のおはなし」の開催

8月4日に大阪教育大学教授 福江純氏を講師として講座を開催しました。定員を上回る申し込みがあり、親子で宇宙について学びました。ソフィア堺の天文台で星の観察も行い、アンケート結果も9割の方が「とてもよかった・よかった」と回答いただき好評でした。天文台やプラネタリウムのある複合施設の強みを生かした催しとなりました。



保護者向け講座
「星と宇宙のおはなし」

2. 「子育て支援課」や「包括支援センター」との連携

- 昨年の課題解決講座で「認知症」を取り上げたことから、今年度も中基幹型包括支援センターと連携して閲覧室で「認知症」に関するパネル展示・ブックフェアを9月に行い、広く利用者にPRできました。



ソフィア堺の天文台での星の観察

- 中区役所での認知症サポーター養成講座に職員が参加しました。12月8日には地域の催し「認知症シンポジウム 認知症になっても安心して暮らせるまち堺」にパネリストとして職員が参加しました。また、11月には「中区役所子育て支援課」と協力してパネル展示を行い、「子育て広場・子育てサークル」紹介など子育てに関する情報を広くPRしました。
- ふるさと納税事業「親子いっしょにえほんひろば」で図書館が「子育てひろば」を訪問時に、中図書館が独自に参加者へアンケート調査を行い、乳幼児を持つ保護者のニーズを探りました。図書館未利用者が40%というアンケート結果を今後のサービス展開に活かしていきます。
- 「中保健センター」と連携して、健康に関するブックフェアを年8回行っています。ブックリスト作成時には、図書館HP上で情報発信しています。

3. 世代に合わせた図書館PRチラシを作成・配布しました。

- 夏休み前には、行事のPRも兼ねて小学生の図書館利用を呼びかけるチラシを作成し、近隣施設・学校などへ約500枚配布しました。
また前出のアンケート結果より、乳幼児を持つ保護者向けに、赤ちゃんからの図書館利用・貸出カード作成を促すチラシを作成し、保健センターでのブックスタート時と子育てひろば6ヶ所で配布を行いました。

図書館協議会委員の意見

- コロナの影響を修正しても、取組による目標の達成度合いが必ずしも十分でない。
- 世代にあわせた図書館PRチラシを作成・配布された活動を大きく評価します。それぞれの世代が求めているニーズが異なるので面白い取組だと思います。
- プラネタリウム等、複合施設をいかした取り組みや、「子育て支援課」や「包括支援センター」との連携、図書館PRチラシの作成・配布等の取り組みは良かったと思う。こういう活動は今後とも継続して行っていく必要があると思う。
- 複合施設で他部局と共同で講座を開くことは、お互いにとって内容的にも充実し、図書館への理解も深まることと思う。これからの活動を期待しています。
- 「認知症」について、他部局と連携で地域の人や利用者へのPRにもなり、関心をもってもらえるいい企画だと思った。子育て支援課、中保健センターと連携しての取り組みやアンケートも、今後のサービス展開に生かしていいと思った。
- 小学生、乳幼児をもつ保護者向けのチラシの作成と配布など、前向きな活動でいいと思った。
- 複合施設の強みを活かした宇宙天文講座は独自で魅力的。ただしなぜ「保護者向け」となっているのか。
- 乳幼児をもつ保護者の40%が図書館未利用者というのはなぜなのか。その理由を考える必要がありそうです。
- 複合施設にある図書館としての強みを生かした企画実施を評価する。
- 教員や教育関係者への利用を促していることを評価します。しかし、既存の「他館共通のルール」ではなく、もっと利用しやすく、借りたり読んだりしやすくなる方法はないのかと感じます。他市では着払いによる資料の宅配もしていますが、そういったものがあると教員の中には借りたくなる者もいるかもしれません。

令和元年度 各図書館の取組状況 (東区)

(参考)

定量的指標	H30	R1	前年度比	4月～2月比
貸出点数 (個人)	453,572	420,687 点	92.7%	101.0%
区民千人あたり	5,361	4,976 点	92.8%	101.1%
予約点数	38,540	33,301 点	86.4%	92.8%
区民千人あたり	456	394 点	86.5%	92.9%
レファレンス受付件数	12,472	11,055 件	88.6%	96.0%
区民千人あたり	147	131 件	88.7%	96.1%
協力貸出点数 (借受)	698	602 点	86.2%	84.6%
うち大阪府外公共図書館・大学図書館からの借受	32	22 点	68.8%	66.7%

※人口84,541人 (令和2年4月1日現在)

※初芝分館を含む

今年度の目標

東区の地域の特性に配慮しながら、以下の重点事業に取り組みます。

1. 「読書が好きな子ども」の育成のために、学校教育部と連携し、区内モデル校 4 校を対象に月 1 回の学校訪問を実施します。
2. 魅力ある棚づくりのために、市民ニーズに基づいた収書を行い、ブックフェア等の取組を推進します。

取組結果

1. 学校図書館チーム支援事業として、区内 4 校の 3 年生、4 年生を対象にのべ 75 時間の訪問を実施しました。「のりもの」「たべもの」といったテーマを設けたブックトークを中心に行いましたが、訪問先の教員からの要望により、総合学習「福祉」に関連するブックトークではブックリストを提供するなど、授業支援につながりました。また、分類記号や百科事典の使い方、読書感想文の書き方などのプログラムを実施し、学校図書館運営のヒントとしていただきました。



ブックトーク「たべもの」

紹介してもらった
本を囲んで

分類を学ぶ

百科事典の
使い方を学ぶ

2. 区域館充実予算を使って、従来より問い合わせや利用の多かった医学の入門書や家政学などの一般書を 1,000 冊程度、調べ学習に役立つ資料など児童書 300 冊程度を購入しました。
定例のブックフェア(月 1 回 一般・児童)に加え、ビジネス書コーナーで 5 回、東区との連携、イベント関連などで 8 回のブックフェアを行い、イベントや時節に応じた本の紹介、貸出を行いました。

また登美丘高校との連携による POP を利用した展示は、年間を通して行っており、ティーンズに限らず幅広い年齢層の利用者が手に取る姿をみかけます。



ビジネス書コーナー



東区との連携



文庫連絡会おやこ寄席との連携



登美丘高校との連携による
POP 展示展

図書館協議会委員の意見

- コロナの影響を修正しても、取組による目標の達成度合いが必ずしも十分でない。
- 学校図書館チーム支援事業、75 時間に及ぶ訪問の内容、テーマを設けたブックトークは、子ども達の興味をひくものから始め、総合学習「福祉」へと展開されたのだと思います。導入→展開の流れの中で、今後続くのであれば、「人権」等もあればいいと思います。
- 学校教育部との連携や、魅力ある棚づくり、ブックフェアの取り組みがそれなりに効果を上げていることがみてとれて良いと思う。YA のおすすめ本の取り組みも、いつも楽しみにしている。
- 学校図書館チームとの連携と訪問、本との結びつきを深める働きは学校図書館を充実させるのにはいいと思うが、図書館職員の業務上の負担はどうだろうか？
- 市民ニーズに基づいた収書、ブックフェアなど、本との出会いや利用促進に積極的な働きかけはいいと思った。また、登美丘高校との連携も、ティーンズや幅広い年齢層の利用者への呼びかけに、高校生がかかわっているのは励みにもなっていると思う。
- 3、4 年生への75時間に及ぶ学校図書館支援活動は内容的にも面白く、子どもを本につなげていく試みとして効果大きいと感じられる。
- 前年度と比較して、レファレンス件数が下がっている。理由が知りたい。
- 駅前立地のよさをもっと生かす方法はないのか、ビジネスパーソンの図書館への期待と合わせ、「途中下車してでも利用したい。」と思える取り組みに期待したいと思います。

令和元年度 各図書館の取組状況 (西区)

(参考)

定量的指標	H30	R1	前年度比	4月～2月比
貸出点数 (個人)	396,017	355,668 点	89.8%	97.5%
区民千人あたり	2,923	2,634 点	90.1%	97.8%
予約点数	23,650	21,990 点	93.0%	101.5%
区民千人あたり	175	163 点	93.3%	101.9%
レファレンス受付件数	4,360	5,717 件	131.1%	150.1%
区民千人あたり	32	42 件	131.6%	150.6%
協力貸出点数 (借受)	487	454 点	93.2%	92.6%
うち大阪府外公共図書館・大学図書館からの借受	1	10 点	1000%	-

※人口135,019人 (令和2年4月1日現在)

今年度の目標

図書館内外でニーズに応じた情報提供を行い、市民の学び・活動を支援します。

1. 西図書館の特性を生かし、専門家や専門機関と連携した選書や健康な暮らしに資する講座、相談事業を実施します。
2. 地域の読書拠点及び子育て支援課、包括支援センターと連携し関係施設へ支援を実施します。
3. 蔵書管理計画に基づき、医療健康情報を充実させるとともに、他の分野のバランスよい収集に努めます。

取組結果

1. 市立総合医療センター、国立がん研究センターなど専門機関、専門家との連携

- 10月に「乳がん・子宮がんを知るミニ講座&がん相談」を開催、6人が講座、相談に参加しました。そのほか、子宮がん検診・胃がん検診で資料展示及びがんリーフレットを配布しています。
- 国立がん研究センターよりがんギフトの寄贈を受け、がん情報コーナーを拡充しました。
- 健康情報ブックフェア(生活習慣病)で専門看護師によるコラムを掲載したブックリストを発行しました。
- 課題解決講座でプログラミング講座を実施しました。
新学習指導要領で必修化するため市民の関心が高く、定員の10組の親子が参加し、講座満足度では8組がとても満足、残り2組がやや満足と好評でした。



ミニ講座



がん情報
コーナーの
拡充

2. 地域との連携

- 子育て支援関係者会議を通じ校区子育てサロン向けの利用案内ファイルを配布し情報提供しています。



(左)子育てサロンでの読み聞かせの様子



(右)校区子育てサロン向け利用案内ファイル



プログラミング講座

- 引き続き浜寺公園駅舎ライブラリー、地域会館に団体貸出や講座を実施しました。
- 羽衣国際大学の協力で今年度で8回目になる留学生による「いろんなことばで絵本をたのしもう」(中国)を実施しました。定員30人に対し20人が参加、子ども司書も進行のお手伝いをし、留学生との交流を深めていました。
また、「子ども哲学カフェ」の開催に向け学内でファシリテーター養成講座を実施し、学生・大学教員、図書館職員11人参加。多文化・多世代の交流事業につながっていきます。
- 包括支援センターイベント情報、校区だよりなど地域の情報を配架しました。



いろんなことばで
絵本を楽しもう

3. 蔵書管理計画による収集

更新した赤ちゃん絵本は貸出が前年度比4%増加しました。ティーンズコーナーは本の入れ替え、除籍をすすめるコーナーの貸出が前年度比8%増加しました。分担分野以外の5、7、8類は前年より40%増の冊数を受入し充実に努めています。



「哲学カフェ」ファシリ
テーター養成講座

図書館協議会委員の意見

- 「蔵書管理計画」による収集と資料管理により貸出増加を実現し、実績を具体的な数値により分析している点が評価できる。
- 西図書館独自で取り組まれている専門機関、専門家との連携による「がんコーナー」の存在を広くPRして、10月に開催された「乳がん、子宮がんを知るミニ講座」のような講座を今後も積極的に開催されるといいと思います。
- 専門機関、専門家の連携が進んでいる。医療・健康情報はすべての住民の関心が高いので、他の地域館の利用者にも恩恵が行き渡るような取組も開発してほしい。蔵書管理計画に効果がみられたことは良かった。蔵書管理は専門職ならではの業務なので、今後とも意識して取り組んでほしい。
- がんの専門家や専門機関と連携した選書や講座、資料提供はこれからも続けていってほしい。また関心の高いプログラミング講座もこれからは取り入れたらいいと思う。
- 浜寺公園駅舎ライブラリー、羽衣国際大学等との連携により、各々の情報交換、交流を深めることは相互にとってもプラスになると思う。
- 蔵書管理計画によって以前より貸し出しが増加している効果はいいと思う。
- 一貫して医療健康情報を中心に蓄積を重ねていて、市全体の大きな力になりうるものと期待される。
- 留学生との交流、「子ども哲学カフェ」も、他にない独自企画で関心をひき、具体的に知りたく思う。
- 他館と比較すると、区民千人あたりの貸出点数やレファレンス受付件数が低い。しかしながら、昨年と比較するとレファレンス受付件数が伸びている。蔵書管理計画による収集では分担分野以外の資料も積極的に収集している点を評価する。

令和元年度 各図書館の取組状況 (南区)

(参考)

定量的指標	H30	R1	前年度比	4月～2月比
貸出点数 (個人)	828,850	746,717 点	90.1%	98.0%
区民千人あたり	5,887	5,368 点	91.2%	99.2%
予約点数	69,885	62,923 点	90.0%	97.6%
区民千人あたり	496	452 点	91.1%	98.8%
レファレンス受付件数	15,376	21,797 件	141.8%	156.1%
区民千人あたり	109	157 件	143.5%	158.0%
協力貸出点数 (借受)	1,933	1,440 点	74.5%	72.2%
うち大阪府外公共図書館・大学図書館からの借受	40	43 点	107.5%	108.8%

※人口139,104人 (令和2年4月1日現在)

※梅分館、美木多分館を含む

今年度の目標

南区教育健全育成会議及び区民評議会の共通テーマである“地域をつなぐ、人をつなぐそして活動をつなぐ”を念頭に以下の目標に取り組みます。

1. 区役所やボランティアと連携し、子ども司書が選んだおすすめ本のリーフレットや POP 展示等による本の紹介を通じて、発達段階に応じた読書活動の推進に取り組みます。
2. ダナン市と友好都市連携を結んだことを機に、関係部局と連携し、ベトナムの文化や歴史を紹介するブックフェアやセミナー等を開催します。

取組結果

1. 子どもの読書活動の推進

ブックリスト「子ども司書のおすすめ本」を編集し、区役所と連携して、区内全小学校へ 8,600 部を配布しました。あわせて子ども司書が作成した POP(本の紹介)を区役所ほか区内 3 小学校で展示しました。



子ども司書 POP 展

2. 友好都市の紹介

友好都市への理解を深めるため、アセアン交流推進室の協力のもと「美味しいベトナムの話」を開催しました。現地で実際に使用されている食器や、食材などに実際に触れ、ベトナムを深く知ることができたと好評でした。(参加者のうち 1 年以上図書館を利用していない市民 11%)



認知症コーナー【梅】

3. 分館での取組

【梅】認知症に関するミニコーナー設置(関連図書 65 点・チラシ、パンフレット 10 種)

【美木多】大活字本全館所蔵目録作成、大活字本ミニブックフェア定期開催

図書館協議会委員の意見

- レファレンス件数を 40%以上増加させ、平成 29 年度比でも 14%増加させた点は評価できる。
- 海外(ダナン市)に目を向け、関係部局と連携し、ベトナムの文化や歴史を紹介されたこと、特に普通知ることができない実際の食器や食材に触れる経験ができたことを高く評価します。
- 外国籍の居住率が高いと聞く南区で、多文化サービスに取り組むのはとても良いことだと思う。在住外国人の図書館利用を高める取り組みに取り組んでほしい。高齢者サービスの取り組みも引き続き取り組んでほしい。
- 子ども司書との POP 展やリーフレットの作成、配布は、子ども司書にとってやりがいがあったと思った。
- 友好都市としてのベトナムの紹介は新鮮で面白いと思った。図書館利用から遠のいていた人もまた参加できたようで、これからいろいろな方面の紹介で、そういったきっかけができるといいと思う。
- 分館もそれぞれの地域のニーズに合ったコーナー、ブックフェアをすることで図書館に足を運ぶ人が増えればいいと思った。
- 「子ども司書のおすすめ本」は児童書専門の司書の方がみたとき、どういう傾向、特徴があるものでしょうか。
- 目標のところで、「発達段階に応じた読書活動の推進に取り組めます」とあるが、具体的にどのような取り組みを実施したのかを聞きたい。
- ニュータウン駅前の各館どうしの何か特色というか、連携のようなものが利用者にわかる、あるいは、わかることで利用をさらに促すことができるかと思います。

令和元年度 各図書館の取組状況 (北区)

(参考)

定量的指標	H30	R1	前年度比	4月～2月比
貸出点数 (個人)	586,044	532,804 点	90.9%	98.9%
区民千人あたり	3,678	3,336 点	90.7%	98.7%
予約点数	44,229	37,819 点	85.5%	92.4%
区民千人あたり	278	237 点	85.3%	92.2%
レファレンス受付件数	4,365	8,996 件	206.1%	216.3%
区民千人あたり	27	56 件	205.6%	215.8%
協力貸出点数 (借受)	1,029	557 点	54.1%	50.7%
うち大阪府外公共図書館・大学図書館からの借受	27	11 点	40.7%	22.7%

※人口159,716人 (令和2年4月1日現在)

今年度の目標

北区の特色および歴史文化を生かした図書館事業につき重点で取り組み、以下の目標を達成します。

1. 子育てフェスタ・区役所事業と連動したブックフェアなど、区政の重点課題と連携した事業を推進します。
2. 北区独自の歴史文化等をテーマとする講座を実施します。参加目標人数を 45 名にします。
3. 課題解決支援に積極的に取り組み、レファレンスの受付件数、事例登録件数を前年比増とします。

取組結果

北区の特色である子育て層の人口増加を積極的に図書館利用につなげるための取組を行いました。また地域の課題解決支援に積極的に取り組み、レファレンス機能強化を図ることにより、レファレンス受付件数、事例登録件数とも目標を大きく上回ることができました。

1. 北区子育てフェスタ

北区役所がイオンモール堺北花田で開催する同フェスタにおいて、ボランティアの協力により、「えほんのひろば」と読み聞かせ会を実施しました。「紀伊國屋書店」と共同でブックリストを作成・配布しました。参加者の親子に図書館のPRを行い、積極的に図書館利用へ誘導しました。



子育てフェスタ「えほんのひろば」と読み聞かせ会

2. 区役所と連携したブックフェアの取組

北保健センターと連携して、6 月に食育月間・歯と口の健康週間に関連したブックフェアを、9 月には「子育て世帯の防災」と題して家族で防災を考えるための資料展示を、2 月には「生活習慣を見直そう」と題するブックフェアを実施しました。また、子ども家庭課や支援機関と連携して、10 月に「里親制度を知っていますか」のブックフェアを開催しました。いずれも関連ブックリストを作成し、図書館ホームページでの情報発信も積極的に行いました。さらに、夏休みと冬休みを中心



「さかい食育目標」啓発ボード

に、北保健センターが作成した「さかい食育目標」の啓発ボードを館内に展示して、シールを貼ってもらうなど、子どもたちが興味を持つように工夫をしました。

3. 区内学校園等との連携

区の初研部会に職員が参加し、選書支援や職員支援・子ども司書などについて教職員に説明しました。また区校園長会でも、児童向け図書館事業のポスター掲示といった、PRの協力を依頼しました。今年度は学校などへの団体貸出点数が増加し、夏に開催したおはなし大会では152名と例年を上回る参加があるなど、子ども読書推進の取組が活発になっています。



子ども司書

4. 百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録と「堺歴史文化市民講座」の開催

今年度は百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録を記念して、館内で長期間にわたってブックフェアを開催して利用者の関心を高めることに努めたほか、他市の図書館とも連携して、図書館ホームページに世界遺産登録を記念した特設コーナーをつくりました。

堺歴史文化市民講座では、北区独自の歴史文化に関わりつつ、区内で地域に根ざした「魅力あふれる百舌鳥野をつくる会」で活動する辻輝夫氏に「ものづくりの視点から見た百舌鳥古墳群」と題する講演をしていただきました。参加目標人数を上回る51名が参加し、大変好評でした。



堺歴史文化市民講座
「ものづくりの視点から
見た百舌鳥古墳群」

5. 「障害者理解促進講座」の開催

近年社会的に大きな関心となっている大人の発達障害をテーマに、10月に堺市発達障害者支援センターアブリコット堺所長の吉川征延氏を講師に迎え、「大人の発達障害ってなんだろう」を開催し、発達障害についての基礎知識や支援の方法などをお話していただきました。あわせて関連資料のブックフェアや当日の資料展示を行いました。



障害者理解促進講座
「大人の発達障害ってなんだろう」
資料展示

図書館協議会委員の意見

- レファレンス件数を平成29年度のレベルへ回復した点は評価できる。
- 百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録を記念して、関連する内容の講座を積極的に開催されることはとても良いと思います。歴史や文化に興味を持たれている市民が堺市にはとても多いので、図書館への誘導が期待できると思います。
- 人口が増加し、子育て世代が多く居住する北区で、子育てや全世代の日常生活を支援する場としての図書館機能をアピールし、さらなる図書館利用増をめざしてほしい。「歴史文化市民講座」を継続・さらなる発展を願う。

Ⅱ 令和元年度 各図書館の取組状況

- 若い世代の多い北区での活動、北保健センターなどとの連携したブックフェアなど、子ども達はじめ住民が興味をもって本との触れ合いができたと思った。
- 区内学校園への選書支援、職員支援、区校園長会へのPRは影響が大きく、団体貸出、お話会の参加人数増加からもわかった。
- 長期間にわたる活動もあつての上での堺歴史文化市民講座の取り組みは、興味を持つ市民も多くなると思う。これからも続けてほしい。
- 北区は、もともと河内国であったせいか、地域の特色や歴史文化に重点をおいておられるようですね。
- 「大人の発達障害」を取り上げられたことは、気づかれにくい問題で大事なことと思われました。
- レファレンスの受付件数が、前年度の2倍以上となり、利用者にとって必要な情報を提供している点を評価する。なぜ、これだけの件数が出たのかその理由を具体的に知りたい。

令和元年度 各図書館の取組状況 (美原区)

(参考)

定量的指標	H30	R1	前年度比	4月～2月比
貸出点数 (個人)	338,148	293,094 点	86.7%	94.4%
区民千人あたり	8,854	7,730 点	87.3%	95.0%
予約点数	17,061	15,328 点	89.8%	95.7%
区民千人あたり	447	404 点	90.5%	96.4%
レファレンス受付件数	8,924	9,203 件	103.1%	112.8%
区民千人あたり	234	243 件	103.9%	113.6%
協力貸出点数 (借受)	352	177 点	50.3%	44.8%
うち大阪府外公共図書館・大学図書館からの借受	3	9 点	300.0%	300.0%

※人口37,915人 (令和2年4月1日現在)

今年度の目標

地域利用者のニーズを的確に把握し、以下の目標を達成します。

月ごとの利用者状況、カウンターでの貸出などの状況から利用者のニーズを的確に把握し、地域課題やニーズを踏まえてブックフェア、関連講座などのイベントを実施することで、利用者数、来館者数対前年度比 5% 増を目標とします。

取組結果

1. 3月2日から、新型コロナウイルス感染症対策として臨時休館し、貸出などの来館型サービスを休止した影響もあり、主な成果指標はいずれも前年度を下回りました。

	平成 30 年度(B)	令和元年度(A)	対前年度比 (A/B)
来館者数(人)	153,672	133,599	90.0%
利用者数(人)	72,010	63,238	87.8%
貸出点数(点)	347,086	300,110	86.4%

※利用者数、
貸出点数ともに
団体を含む。

2. 「課題解決支援講座」の開催

地元出身のライトノベル作家・蟬川夏哉氏の講演会を12月22日に実施しました。進路に悩む中高生の課題解決の一助を目的に開催した講演会でしたが、中高生の参加は少なく、参加者のほとんどは区外・市外居住者でした。今後、ニーズ把握、広報のあり方などを分析し、改善を検討していく必要があると考えます。



課題解決支援講座
「異世界居酒屋「のぶ」の作者蟬川夏哉さん
講演会 in 美原～みんなの夢って何？
作家の話を聞いてみない？～」

Ⅱ 令和元年度 各図書館の取組状況

3. レファレンス受付件数は資料を探す利用者への積極的な声掛けなどもあり増加しました。

返却資料の早期配架を心がけ、所属での接遇研修実施の成果もあり、アンケート調査「全体満足度」も上昇しました。

	平成 30 年度 (B)	令和元年度 (A)	対前年度比 (A/B)
レファレンス受付件数	8,924	9,203	103.1%
アンケート調査・ 『全体満足度』	4.10(1位)	平日 4.26(1位) 日曜 4.29(2位)	

図書館協議会委員の意見

- コロナの影響を修正しても、貸出の減少が最も大きい。
- レファレンスは前年度比増であるが、平成 29 年度のレベルまでには回復していない。
- コロナ禍で閉館を余儀なくされた期間があり、図書館利用者が激減したのはやむを得ないと思います。今後もお終息の兆しが見えない現状の中で、来館に頼らなくても大丈夫な図書館の利用について検討していただければと思います。
- 地域密着度の高い美原区の図書館だが、引き続き、利用者ニーズの把握に努め、利用者の満足度を高める図書館サービスのさらなる展開を心掛けていってほしい。
- 人口のわりに貸出し点数が多いのは、本や施設が充実しているのと他の地域の人の利用が多いからだろうか。利用者への声掛け等で利用や満足度があがるのは心がけ次第と思った。
- 「進路に悩む中高生の問題解決」大事なことですが、そういう直接的なテーマ設定や、講演という形で、中高生をひきつけるのは困難でしょうね。こちら側から働きかけるのは果たして有効なのか？ 求めてきたとき、どんな手助けができるか、という所までなのか。
- どの館も新型コロナウイルス感染症対策として臨時休館し、貸出数が減っている。美原区で記載されたのはわかりやすいが、他館も同様であるため、貸出やレファレンス以外のサービス内容を知りたい。
- さまざまな工夫で、利用しやすいといつも感じています。

Ⅲ 令和元年度の総評

- コロナ禍による影響に関する分析を行う必要がある。
- 個々の事業・サービスを見ると 100 点のものもあれば、もう少し踏み込んでほしいところもある。中でも障害者サービスは、全体的にみても少し弱いと思われる。予算が減ってきている中で難しい部分もあると思うが、充実させてほしい。
- 令和 3 年 4 月から堺東にできるカウンターについて、1 か所でも利便性の高い場所に図書館施設ができることは大変よい。
- 図書館は教育の三本柱、学校教育・社会教育・家庭教育すべてにおいて生かされるべき。また生かされることでよい図書館になる。図書館は次の世代を育てる重要な施設。
- すぐに成果が出ないかも知れないが、何年か先に評価される。長い目で見る。
- 図書館は市民から見ると地味な部署だが、歴史資料の保存・活用や子どものかけがえのない読書体験に携わる重要な仕事。自負と意欲を持ってより良いサービスをしてほしい。次世代につなげ、次の時代に活かされるように。
- 閲覧室の書架の高さや階段など、ハード面のバリアフリー化については必要だが、そうかといって今すぐ対応できるものではない。現状の問題点をまとめておき、次の建て替えに生かすことが望ましい。その際は利用者としての視点を取り入れること。
- 各区の取組については、すべての館において、各区の状況に合わせてよくやっている。今後もすべての市民が図書館に足を運ぶことを最終目標として、それぞれの館で取組を積み重ねていってほしい。
- レファレンスが多くなっているのは、日ごろの図書館の働きもあってのこと。とてもいいことだと思う。また、堺市の新聞記事見出しのデータベース化、SNS 発信、電子図書、オンラインでのレファレンス、デジタルアーカイブ等、ICT 面では便利になり、それを使いこなしていける市民にとっては、それらの普及は好ましいことだと思う。一方で、その環境にない人、使いこなせない人も多くいることを忘れないでほしい。たとえば、使いこなせない人たちには、講習会をして利用促進を図るのもいいと思う。
- 図書館は「すべての市民の知のよりどころ」、頼りになる司書と豊富な資料があつてこそ生かされるし、図書館に行って調べたい、集いたいと思う。利用者にとっていい環境を整えるのも大事だと思う。そういった意味では、やはり新しい中央図書館をお願いしたい。
- 区役所、保健センター、プラネタリウム等の色々な部署、高校、地域の歴史を探究する会やボランティアと連携したブックフェアやシンポジウムを各区域館で行っているが、それができるのは図書館ならではのことで、こんなことを図書館がしていると色々なところでアピールして、図書館への理解を深め、利用促進にもつなげていけたらと思う。
- 令和元年度末以後、感染症の急拡大で 3 か月近い休館を余儀なくされたが、その休館という措置、および休館中の図書館サービスについて、その後現在に至るまでの開館実態をふまえて検討しなおす必要がある。図書館はコロナ下でもその利用が強く望まれた施設であり、ICT や電子書籍の利用拡大という対応は当然としても、それだけでよかったのかどうか、対症療法的ではなく、こういう事態の恒常化に備えて、今後、休館せずに感染を防ぐ施設の工夫、予約貸出や宅配サービスなど、電子媒体だけでなく本という個性的なモノに触れる読書体験のできる場であり続けることが必要。
- 各館それぞれの立地や地域性にあわせて講座や展示等精力的な取組がなされ、とくに「新聞記事見出しデータベース」のような地味で大事な仕事に着手している点、高く評価される。そして多くの館にお

いてレファレンス件数が増加していることは図書館利用法の向上拡大と積極的関心を示し、利用者と図書館との双方向性を示すものと思われる。ただしそれらが来館者や貸出数の増加には必ずしも結びついていないように見受けられ、やや減少の傾向さえみられる。それはどうしてなのか、あるいはどういうことなのか、検討する必要がある。

- 図書館利用でまず思い浮かべるのは貸出かもしれない。しかし同等あるいはそれ以上に重要なのは閲覧調査である。図書館利用度の指標に貸出数があげられるのは最も数字的に把握しやすいからであろう。その点閲覧調査の利用度は把握しにくい。しかし図書館の恩恵を感じる最も大きなことの一つは、わからないことがあって図書館で様々な本を調べて答えに行きついたときである。その喜びはその図書館とともに記憶に刻み込まれる。大げさに言えば人類の記憶の一端に触れる場だということである。こういう点を重視すれば貸出数を絶対視する必要はないようにも思われる。レファレンス件数の増加と貸出数が連動していないとすれば、こういう閲覧調査利用度の広がりということも考えられる。そこで大事なのはやはり蔵書である。図書館の心臓部である。目録書誌作成は心臓を機能させるためのエンジンである。政令市比較のなかで、市の規模の大小はあるにせよ、蔵書数が低位にあることは残念である。世の流行とともに移ってゆく本の新陳代謝をスムーズに行い、人の記憶の詰まっている図書館でしか見られない本、10年に1回の閲覧貸出がないかもしれない本を大事にすることは図書館の使命だと思われる。
- 堺市立図書館が古文書や和本を多数含む地域資料を豊富に所蔵していることは大きな強みであり、魅力となっている。積極的にマイクロ資料のデジタル化を行い、そのデータベースを全国的に公開することは堺市図書館の存在価値を内外に知らせるためにも必要。
- 市民の自主的活動の場の確保と、設備の充実化。
- 開館時間が9時からにすることは困難か。困難の理由。中之島をはじめ9時開館が多くなっているのではないか。
- 中央図書館の改築計画を、立地を含め具体的に作成することは喫緊の課題になりつつある。
- 他市の図書館と比較して、図書館職員のサービス向上への意識が高いと感じる。また、市民のレファレンスサービスのニーズも高い。さすが直営で実施しているだけある。また、地域館では今年度の目標を設定し、その取組結果がわかりやすく記載されており、各館の強みを活かしてサービスを実施している点も評価する。行政からは直営で実施する良さが理解されていないのが残念である。その点をどのようにPRしていくかが課題。
- 堺市立図書館は府内全体からみると、平均以上の図書館サービスを安定して実施できていると見ています。しかし、個別にみると、YA サービス・高齢者サービス・障害者サービス・在住外国人へのサービス等において全体的に不十分であり、堺市民の全世代に図書館サービスが届く仕組みになっているかという心もとない感があります。例えば、働く世代の男性利用者は少ないし、行政支援サービス等にも着手できていません。そうした点を評価できる指標の設定も必要ではないかと思います。
- 時代の先端を取り入れた ICT サービスや新規サービスの実施に目が向きますが、一般利用者にとっては、日常の当たり前のサービス(カウンターでの対応、本が探しやすく読みたくなるような書架づくり、居心地の良さ、職員の接遇等)がしっかりできているかという事が、最大の評価ポイントであると思われます。そうした点も合わせてを評価することも必要ではないでしょうか。
- 図書館利用者アンケートに、コロナ禍による影響に関する項目を追加してはどうでしょうか。
- 利用者のニーズや、協議会での意見などもよく考慮され、図書館サービスの向上に努められていること

が大変わかりやすく伝わってきます。さまざまな取組があろうかと思いますが、時代の流れも意識されていることも伝わってきます。しかし、基本的な「サービス」とは一体何なのかと考えることがあります。今回の冊子の中にも「声かけ」について評価されているものがありました。最近では職員の方が利用者によくあいさつされていると思っています。しかし、カウンターの前で多くの人が並んでいても、平気で他のことをなさっている様子も相変わらずよく見かけます。利用者からはわからない急ぎのようなのかも察しますが、早く読みたい、早く借りたいという、当たり前の誰もが皆感じていることに対して「それはないだろう」とも思えなくもありません。協議会の話し合いの中で出されていた、予約で届いた本をそのままコンテナに入ったまま放置しているか、いち早く届けられるよう仕分けされるのかの違いも、「これは差があるなあ」とも思わず感じます。全ての利用者を満足させることは難しいですが、こうして図書館機能充実のためにサービスについてさまざまな取組を本当にありがたく感じています。

- 評価基準の見直しの必要性。以前から協議会でも指摘されているように、評価基準が大きな数量を扱うものと小さな数値であるものが混在している。
- 「サービス方針」と「評価基準」のマッチングの見直し
- 「量」によって「質」を想定する評価が多いが、「質」を評価する手法を検討すべきである。
例：レファレンスの分野別分析。「暮らしに役立つ（課題解決）」レファレンスになっているか？
特に e-レファレンスの分析。
- 「学習の場」は講習会、研修会のみを意味するのではなく市民が出会って協力して課題を解決する「活動の場」を意味する。先進図書館における「ラーニングコモンズ」などを参考にすべき。
- PDCA サイクルの遵守。以下の点から PDCA サイクルが機能していない。
 - 年度ごとの評価基準の設定が曖昧。取組の方針があってはじめて、達成すべき目標値が設定できるが、取組の方針が必ずしも明確ではない。
 - 単年度目標と多年度にわたる中期的目標が設定されていない。単年度目標については、単年度実施の理由が必要だが明確でない。
 - 目標達成の度合いについての評価が行なわれていないので、サイクルが成立していない。
 - 達成目標が曖昧なため、評価も曖昧になっている。特に目標が達成できなかった場合は分析が必要。
 - 大きな数値的向上が望めない分野については、必ずクリアすべき数値目標を設定する必要があるが未実施。

Ⅳ 基本的な図書館活動指標

	平成28年度	平成29年度	(前年度比)	平成30年度	(前年度比)	令和元年度	(前年度比)
予算							
図書館費 (円)	361,478,000	365,274,000	101.1%	373,229,000	102.2%	356,529,000	95.5%
資料費 (円)	96,929,000	98,030,000	101.1%	99,120,000	101.1%	99,120,000	100.0%
図書購入費	84,400,000	85,400,000	101.2%	86,400,000	101.2%	86,400,000	100.0%
新聞・雑誌・追録等資料購入費	12,529,000	12,630,000	100.8%	12,720,000	100.7%	12,720,000	100.0%
オンラインデータベース使用料 (円)	4,251,000	4,251,000	100.0%	4,198,000	98.8%	4,312,000	102.7%
資料収集							
蔵書数 (点)	1,889,247	1,891,973	100.1%	1,894,075	100.1%	1,896,662	100.1%
受入点数 (点)	59,001	55,239	93.6%	55,338	100.2%	55,768	100.8%
雑誌タイトル数 (点)	1,346	1,341	99.6%	1,315	98.1%	1,314	99.9%
オンラインデータベースタイトル数	12	12	100.0%	12	100.0%	9	75.0%
利用サービス							
開館日数 (中央図書館のみ・日)	306	306	100.0%	308	100.7%	285	92.5%
職員数 (人)	123	124	100.8%	125	100.8%	158	126.4%
来館者数 (施設利用者数・人)	2,759,213	2,283,420	82.8%	2,223,697	97.4%	2,001,220	90.0%
登録者数 (人)	288,134	301,088	104.5%	313,662	104.2%	324,578	103.5%
個 人 (新規)	12,758	15,350	120.3%	15,587	101.5%	13,428	86.1%
うち大阪市相互利用	143	122	85.3%	131	107.4%	141	107.6%
うち泉北地域4市1町相互利用貸出	278	251	90.3%	232	92.4%	219	94.4%
団 体 (新規)	28	41	146.4%	18	43.9%	18	100.0%
貸出点数 (点)	4,423,574	4,347,694	98.3%	4,313,266	99.2%	3,951,877	91.6%
個人貸出点数	4,339,884	4,276,016	98.5%	4,240,402	99.2%	3,886,601	91.7%
うち協力貸出点数 (貸出+借受)	14,526	13,513	93.0%	14,645	108.4%	12,823	87.6%
うち大阪市相互利用	13,118	16,326	124.5%	17,652	108.1%	12,783	72.4%
うち泉北地域4市1町相互利用貸出	13,327	13,976	104.9%	14,600	104.5%	13,387	91.7%
団体貸出点数	83,690	71,678	85.6%	72,864	101.7%	65,276	89.6%
予約件数 (件)	996,432	1,066,632	107.0%	1,108,130	103.9%	1,070,527	96.6%
複写枚数 (枚)	57,790	64,730	112.0%	61,537	95.1%	50,371	81.9%
オンラインDB利用件数 (件) ※1	7,663	41,108	536.4%	32,424	78.9%	49,379	152.3%
HPトップページアクセス数 (件)	2,520,283	2,161,111	85.7%	3,295,729	152.5%	2,390,465	72.5%
蔵書検索回数 (回)	3,300,797	2,814,706	85.3%	3,013,824	107.1%	3,230,823	107.2%
レファレンス受付件数 (件)	108,526	83,727	77.1%	76,278	91.1%	90,051	118.1%
電子書籍閲覧回数 (回)	15,672	18,712	119.4%	21,972	117.4%	28,368	129.1%
市民の声の受付件数 (件)	41	32	78.0%	32	100.0%	62	193.8%
講師派遣人数 (人)	25	25	100.0%	30	120.0%	23	76.7%
地域資料サービス							
地域資料蔵書数 (点)	103,513	105,594	102.0%	107,622	101.9%	109,866	102.1%
地域資料レファレンス受付件数 (件)	4,461	5,511	123.5%	5,902	107.1%	6,078	103.0%
デジタルアーカイブ点数 (点)	854	919	107.6%	1,037	112.8%	1,172	113.0%
貴重資料の利用点数 (点)	399	300	75.2%	283	94.3%	351	124.0%
行政資料受入点数 (点)	794	1,136	143.1%	845	74.4%	154	18.2%

Ⅳ 基本的な図書館活動指標

	28年度	29年度	(前年比)	30年度	(前年比)	令和元年度	(前年比)
児童サービス							
児童書蔵書数（点）	529,617	532,006	100.5%	524,307	98.6%	524,201	100.0%
児童書貸出点数（点）	1,745,748	1,729,174	99.1%	1,713,823	99.1%	1,565,896	91.4%
児童のみ登録者数（点）※2	35,809	34,502	96.4%	33,327	96.6%	31,829	95.5%
学校園への配送点数（点）	49,710	46,978	94.5%	48,234	102.7%	36,685	76.1%
図書館見学校数（校）	73	75	102.7%	77	102.7%	76	98.7%
図書館見学参加人数（人）	5,826	6,144	105.5%	6,220	101.2%	5,831	93.7%
おはなし会・読み聞かせ会 実施回数（回）	664	680	102.4%	646	95.0%	591	91.5%
おはなし会・読み聞かせ会 参加人数（人）	11,046	10,785	97.6%	11,527	106.9%	8,737	75.8%
「子ども読書の日記念事業」等 学校訪問対象生徒・児童数（人）	2,838	2,323	81.9%	1,274	54.8%	3,652	286.7%
学校図書館訪問校数（校）※3	74	55	74.3%	48	87.3%	27	56.3%
講師派遣人数（児童書に関わる講座・ 人）	21	23	109.5%	23	100.0%	19	82.6%
「絵本から広がる家庭での親子ふれあい 事業」実施回数（回）	142	140	98.6%	140	100.0%	120	85.7%
高齢者・障害者サービス							
対面朗読室利用回数（回）	355	262	73.8%	322	122.9%	193	59.9%
大活字本蔵書冊数（点）	4,922	4,776	97.0%	4,837	101.3%	4,900	101.3%
一カ月貸出延利用者数（人）	5,494	5,909	107.6%	7,309	123.7%	6,271	85.8%
点字図書館への貸出冊数（点）	149	88	59.1%	142	161.4%	116	81.7%

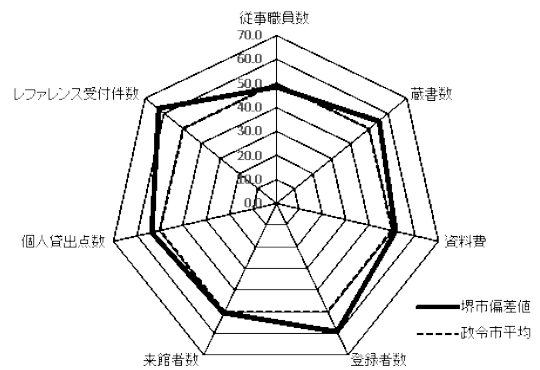
※1 平成28年度は新システム導入後の2017年1月～3月のみ計上。

※2 14歳以下の登録者数。

※3 図書館独自で学校図書館へ訪問を行うほか、学校教育が行う巡回訪問に同行し、現状や課題の把握に努めた。

（参考）

	堺市	政令市 平均	人口千人あたり		
			堺市	政令市 平均	堺市 偏差値
専任人口	826,481	1,386,256			
従事職員数	150	241	0.18	0.19	48
正規職員数	64	81	0.08	0.06	56
蔵書数	1,896,662	2,403,691	2,295	1,970	55
資料費	98,500	135,636	119	113	51
登録者数	324,578	359,682	39	28	59
来館者数	2,001,220	3,146,057	2,421	2,353	51
個人貸出点数	3,886,601	5,551,739	4,703	4,297	53
レファレンス受付件数	90,051	92,164	109	65	63



（※1）専任職員、非常勤、短期臨時職員、委託従事者の合計。非常勤、短期臨時職員、委託従事者は年間1500時間を一人とする

（※2）逐次刊行物を含まない

（※3）資料費については決算ベース

出典：「令和2年度 指定都市立図書館長会議 資料」